

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1490500103
法人名	株式会社 白寿会
事業所名	グループホーム ふあいと天神橋
訪問調査日	平成24年9月12日
評価確定日	平成24年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490500103	事業の開始年月日	平成19年6月1日
		指定年月日	平成19年6月1日
法人名	株式会社 白寿会		
事業所名	グループホーム ふあいと天神橋		
所在地	(〒232-0033) 横浜市南区中村町5-317-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成24年8月20日	評価結果 市町村受理日	平成24年12月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日中は玄関の施錠をせず、誰でも自由に出入りできるようになっています 地域とのかかわりを持ちつつ、個々のご入居様が安心して安定した生活を確保できるように支援します 笑い声・会話の絶えることのない安らぎのある明るいホームです 誰でも訪問することのできるオープンなホームを心がけています より充実した事業展開を行っていき、地域の福祉向上に貢献し、地域との交流を深めていきたいと思っております</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成24年9月12日	評価機関 評価決定日	平成24年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>①このホームは株式会社白寿会の経営である。母体は鎌倉の橋本クリニックであり、医療に関してのノウハウがある。白寿会、平平會のグループは有料老人ホーム「はなみずき」と7つのグループホームなど福祉に関する事業を展開している。医療に関するノウハウを活用し、グループ内のつくいけクリニックから往診に週1回、有料老人ホーム「はなみずき」所属の看護師が往診医と日にちをずらして週1回、医療が週2回入る厚い医療体制がとれている。24時間対応体制を整備し、医療連携体制を実施し、利用者のターミナルケアについてはご家族が希望されれば対応出来る体制を整えている。法人内相互の連携は強く、中核となる「はなみずき」をベースとした法人内研修会、勉強会を持ち、レベルアップに努めている。開設時に、職員の意見を吸い上げたこのホーム独自の理念を作成し、ケアを展開している。比較的平坦な土地であるので散歩には適しているが、現在、ADLが低下した利用者が増え、散歩もなかなか難しい状況になっている。重度の方が多いので介護技術力及びチームワークが要求されるケースが多く、それらの向上が側近の課題となっている。</p> <p>②管理者は地域との密着を1つの方針として掲げ、中の雰囲気明るく保つ事と、閉鎖的にならない事を柱に展開を図っている。外部との接触については、運営推進会議を活用し、町内会長、地域包括支援センター、民生委員などとの連携を深め交流を深めている。町内会長は隣のビル(4階建)に居住しており、昨年の3.11以降、津波などの場合には避難しても良いと言っている。</p> <p>③教育については、白寿会、平平會グループ本部が教育計画を持って実施しており、新入職員、一般職員の研修を行っている。新入職員については半年をかけて新しい職員を育てるプログラムでグループホームに於ける交換研修も組み込んでいる。その他の研修については、上大岡に近く、ゆめおおかでは各種研修が沢山企画され、地の利を利用して必要な研修を選んで参加するようにしている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームふあいと天神橋
ユニット名	だいち

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域貢献としてのサービス展開を踏まえた理念を目的のつくところへ掲示し、すべてのスタッフが同一目線となるように絶えず、意識しながら実践に向けて取り組んでいる	地域貢献としてのサービス展開を踏まえた理念を目的のつく所へ掲示し、全てのスタッフが同一目線となるように、絶えず意識しながら実践に向けて取り組んでいる。在宅時代と同じ気持ち、状態で過ごしてもらえるホームを心がけている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	熱中症対策の一環として地域高齢者に訪問していただき、憩いのひとときを過ごしていただけるよう施設開放をしている 施設としての自治会加入となっており、夏祭りなどの寄付も行い参加させてもらっている	施設として自治会加入となっており、夏祭りなどの寄付も行い参加している。管理者は地域との密着を1つの方針として掲げ、気軽に立ち寄って頂けるホームを目指している。利用者との散歩・ゴミ捨て時などに、地域の方に積極的に挨拶するように心がけ、また地域の方から挨拶を頂いたり、話かけられたりするようになり、徐々に顔なじみの関係は深まって来ている。熱中症対策の一環として地域高齢者に訪問して頂き、憩いの一時を過ごして頂けるよう施設開放をしている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方が増加してきている昨今、より理解していただき、その支援方法に視点をおかなければいけなくなっている 6月にはフリーマーケット開催となり、地域の方々の参加も得られた 今後も行っていく予定です	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	いろいろなことを経験しながら、サービス向上に取り組んでいる 運営推進会議時の意見・アドバイスを参考にして改善に努めている	運営推進会議は年6回の開催である。メンバーは町内会長、民生委員（2名）、ご家族代表（2名）、地域包括の主任ケアマネそれにホーム関係者である。実施を日曜日に決め、いろいろなことを経験しながら、サービス向上に取り組み、率直なご意見やアドバイスを頂き、改善に努めている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市区町村主催の研修などへ積極的に出席して顔のみえる関係づくりをし、協力関係を築いている また福祉局や区の高齢者担当にTEL連絡などにより現状を伝え、相談にのってもらったりアドバイスをいただいたりしている	横浜市福祉局、南区主催の研修等にはできる限り出席している。また、福祉局や区の高齢者担当にも電話連絡などにより現状を伝え、相談にのってもらったりアドバイスを頂いている。生活保護の方もいるので、その担当との連携もある。包括支援センターとは連絡は取っているが、センターまで距離がありADLの関係で行かれない頑丈にある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については随時研修に参加し、職員間で勉強会などを行い、周知徹底している 具体的行為については、各職員がどの程度理解できているかを事業所内会議などで把握した上で個別指導も行っている 拘束でないと思っていることでも拘束に値することが沢山あることなど詳細にわたって指導を行っている	身体拘束については法人としてしつこいと思えるほど研修を行い、周知徹底している。随時研修に参加し、職員間で勉強会などを行い、周知徹底している。具体的行為については、各職員がどの程度理解できているかをフロア会議などで把握した上で個別指導を行っている。拘束でないと思っていることでも拘束に値することが沢山ある事等、詳細にわたって指導を行っている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても身体拘束と同様、実例をあげるなど詳細にわたって指導している 小さな虐待をも見逃すことのない様に、利用者・職員に声かけを行い、それにつながる行為などが発覚したときは速やかに対策を考じ防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に資料保管していて、必要に応じて勉強会を行っている 成年後見人制度利用の利用者もいらっしやるので、職員も少しずつ理解してきている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明のもと、理解を得て納得いただけるように努め、法改正による改定なども随時行っている ご本人面談はもちろんのこと、ご家族とも十分な話し合い・説明のもと、理解・納得の上の契約としている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対しては、常日頃より意見を尊重し受け入れるように心がけている 家族等に対しては、来訪時などに意見・希望を収集し、可能な限り取り入れるようにしている また、不満・苦情に対して迅速に対応している	利用者の思いについては、常日頃より入居者の意見を傾聴し受け入れるように心がけている。ご家族等に対しては、イベント時、運営推進会議時、来訪時などに意見・希望を収集し、可能な限り取り入れるようにしている。ご家族の縁の遠い人が多いので聞ける人は多くはない。また、不満・苦情に対しては迅速な対応を心がけている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面接を行うことにより意見聴取を行い、話し合いなどをした上で可能な限り取り入れている	可能な限り職員の意見を取り入れるようにし、調整できる事柄などについては調整するようにしている。定期的に面接を行うことにより意見聴取を行い、話し合いなどをした上で可能な限り取り入れている。地域との密着の方針も全員の理解を得ており、外に向けてもチームワークで展開を図っている。新しい職員が入って来た場合には、声をかけ、話しがしやすい雰囲気を作るよう皆で心がけている。書類で自己評価の中で本部に要望を云えるシステムとなっている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの勤務状態を考慮した上で定期的に査定を行い、働きやすい職場環境となるように努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議において短時間ではあるが研修を組み込んでいる 必要に応じての介護技術力アップのための取り組みも個々に行っている 法人研修に関しては、基本的には各職員の自主性を重んじているが、多数の参加となっている また、資格取得支援も行い、各職員のスキルアップを図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	いろいろな研修にできる限り参加し、ネットワーク作りをしてサービスの質の向上に努めている 定期的にブロック会開催となっており、積極的に参加することにより意見交換・交流となっている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所1,2か月は特に気配り目配りをして、職員同士の連携により、ご本人の理解に努めている ご本人と定期的に面接して、安心して安定した生活の確保となるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面接して今後について充分話し合いをし、不安を取り除き、早期に安心していただけるように努めている 1度のみ面接とはせずに2度・3度と行い、気軽に相談したりされたりの関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々に応じてアドバイスをしながら、介護保険内外の必要な他サービスについての説明などを行い、納得していただいた上で利用に結びつけている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思・意欲を尊重し、それぞれの利用者のできることを見極めた上で、家事分担して共に支えあう関係作りをするように努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族などが常に訪問しやすい環境作りを心がけ、共にご本人のことを考えて支えていくように心がけている またご家族とよりよい関係を保つことで、共にご本人を支えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出などの機会を通じて支援に努めている ご家族の面会はもちろんのこと、それ以外にも親戚の方・旧友などの面会もある また、娘様とともにお中元・お歳暮の品定めなどに外出されたり、ご家族と共に外出外食されたり、娘様と昼食を兼ねて通院したりして思い思いのひと時を過している	面会・外出など機会あるごとに支援に努めている。ご家族の面会は勿論のこと、それ以外にも親戚の方・旧友などの面会もある。また、娘さんのお中元・お歳暮の買い物、ご家族との外出など、思い思いの時間を持てるよう支援している。正月を自宅で過ごす人、家族と一緒に外食する人なども居て、自由にして頂いている。ご近所との関係を深め、ここが自分の家となるように努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員間の連携により、配慮している利用者それぞれの個性を把握した上で、支えあいの心を持って接することにより、利用者達も孤立することなく、互いによりよい関係を築いている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も定期的にフォローしていき、いつでも相談にのれるよう心がけている また要請があれば支援もしていきたいと思っている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	集団生活のため、すべてが希望通りとはいかないが、できる限り希望に沿って利用者本位の生活確保としている 日常のコミュニケーションの中から、各利用者の要望の聴き取りを行い、可能な限り受け入れを行っている	集団生活の中で、できる限り希望に沿って利用者本位の生活の確保を心掛けている。ご家族の要望も吸い上げるように努めている。また、各利用者とのコミュニケーションを取りながら、それぞれの要望を聴き取り、可能な限り受け入れるようにしている。訴えのある人の要望は聞きやすいが、言葉の少ない人には気に掛けて声をかけるようにしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に確認を行い、入居後の生活に反映するようにしている また、入居後も把握するように努め、有効なことは生活の中に取り入れている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント・個人記録を通し、職員間で共有して把握できるようにしている 毎日の声かけの中で、その日の体調など様子をみて日々変動した対応を行い、メリハリをつけるように心がけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、ご本人・ご家族・必要な関係者と一緒に介護計画を作成している また、個別チェック表を使用して毎月モニタリングを行い、プラン見直しにつなげている	日常生活と介護計画との連動、介護計画の項目にNO.を付けた個別チェック表等を活用した毎月のモニタリング、定期的カンファレンスを行い、本人・ご家族・必要な関係者と一緒に介護計画を作成している。項目で出来ないものは解除、新たに課題を加えて計画を作成している。計画策定については、管理者のケアマネジャーとしての経験を活用し、居宅のアセスメントの良さなども取り入れながら、間口の広い見方を心がけている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアの実践に心がけ、改善点・追加点・削除点などを見出し、新ケアプランへ反映している 個別記録に関してはその日の特記事項に留意して記入するように指導している また職員間の“報・連・相”の大切さを訴え、情報共有に努めて実践して介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者それぞれのその都度の状況に合わせて必要と思われるサービスを見極めてピックアップし、ご本人・ご家族に対して柔軟な支援をするように心がけている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事参加などを介して地域に根付いてきている また、包括と連携をとり、ボランティアさんを紹介してもらったり、ケアマネさんの見学会を実施したりしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回のホームDrによる定期受診を行っている また必要に応じて専門医への受診支援も行っている 利用者によっては家族対応でかかりつけ医受診となっており、家族に状態変化を伝えたり同行したりしてDrとの連携をとっている	医療に関するノウハウを活用し、つくいけクリニックから医師が毎週往診に来ており、24時間対応体制を整備し、医療連携体制を実施している。看護師は同系列のはなみずきから週1回、医師と日をずらして来ている。必要に応じて専門医への受診支援も行っている。精神科の往診を依頼している利用者があるので、適切な医療を受けられる支援に努めている。また、利用者によっては家族対応でかかりつけ医受診となっているので、ご家族に本人の状態変化を伝えたり、同行する等、医師との連携を図るよう努めている。訪問歯科も週1回の訪問がある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回のNs訪問となっていて、Drとの連携体制もとれている また24時間体制となっており、いつでも連絡可能となっている 日々の連絡の中で受診・入院の受け入れ先もNsへの相談で可能となっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ訪問したり、Dr・Ns・SWなどと連携をとり、病状把握に努め、早期退院に心がけている また連携可能となってきている病院もある		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前よりターミナルケアについての説明を行い、延命処置などの方向性確認も行うようにしている また、状態が重度化した場合にはご本人・ご家族・Dr・Ns・職員間で連携をとり、最善の治療への取り組みを行っている	利用者のターミナルケアについては、ご家族が希望されれば対応出来る体制を整えている。入居時に、ターミナルケアについての説明を行い、延命処置などの方向性の確認も行うようにしている。状態が重度化した場合には本人・ご家族・医師・看護師・職員間で方向性を決め、連携をとり、最善の治療への取り組みを行っている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、対処できるようにしている 定期的にあるいは必要に応じて、対処法について研修・実習を行い、すべての職員に周知徹底している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練計画書を作成して、定期的に行っている また、地域住民との協力体制を整え、火災のみならず天災に対しても訓練を行っている	防火訓練計画書を作成し、避難訓練を定期的（年2回）に行っている。また、運営推進会議などにおいても災害時についての話し合いを行い、相互協力体制ができるように努めている。災害時持出し用ファイルの整備出来ている。運営推進会議を避難訓練の日に合わせて実施し、避難経路を教えてもらった。本部での統一を図り、備蓄も3日分程度保有している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを傷つけることのないように、言葉遣いには気をつけ、尊敬の意をもって接するようにしている また、なれなれしい言葉づかいにも各職員に注意を促している コンプライアンスを十分に理解することで自ずと対応可能となってきた	利用者の誇りやプライバシーを傷つけることのないよう言葉遣いには気をつけ、尊敬の意をもって接するように努めている。また、言葉かけは、他人行儀でもなく馴れ馴れしくもならないよう気をつけている。誇りやプライバシーに関する見極め・基準が大切であると考えている。コンプライアンスについては管理者の方針で、特にゴミ出しの倫理を十分に気を付けるよう指導している。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の話を傾聴し、希望などを把握した上で、叶えられるものとそうでないものを見極め、ご本人が納得できるような説明をし働きかけを行っている また、促しにより最終的に自己決定していただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのライフスタイルに応じた支援を行い、職員本位・おしつけとならぬよう気をつけている また、希望に添えない時はその理由を明確にして納得していただけるように働きかけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容の促し・援助を行っている 理美容に関しては定期的に訪問していただいている(隔月) また、衣類に関してはご家族対応であったり、スタッフ対応にてご本人と一緒に購入を行ったりしている 買物サロン導入により、新調となっている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に沿いつつ、できる範囲で食事の準備や後片づけなどを行っている また、外食(家族対応)・出前(それぞれのメニュー選び)の楽しみも取り入れるようにしている	一人ひとりの嗜好に沿った食事提供と、本人ができる範囲で食事の準備や後片づけなどを行っている。また、外食・出前(それぞれがメニュー選ぶ)の楽しみも取り入れ食への工夫をしている。職員は料理が得意であり、おやつやお誕生日会のケーキなどは利用者も交えて手作りし、楽しむ機会を設けている。男性利用者は必ず後片付けを手伝ってくれている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量については把握し記録に残している 水分補給は脱水にならぬように気をつけ、水分不足と思われるときは吸水量のよい物・ゼリー・嗜好飲料にて対応し、それでもダメなときはNsへ連絡するようにしている また、栄養バランスについては宅配業者対応となっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食後に歯磨きの声かけ・誘導を行っている 8月より、新たな訪問歯科により嚥下指導もお願いしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて状態把握をし、失敗による不快感のないようトイレ誘導に努めている その一方で重度化がすすみ、股関節の開きが悪くなってきている利用者には夜間のテープ止めオムツ使用も余儀なくされてきている	一人ひとりの排泄チェック表にて状態把握をし、失敗による不快感がないよう、トイレ誘導を心がけている。また、尿意、便意を大切に、安易にオムツ・パッド使用による感覚喪失にならないように努めている。その一方で重度化がすすみ、股関節の開きが悪くなってきている利用者には夜間のテープ止めオムツ使用も余儀なくされてきている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量のチェックを行い、適度な運動を摂り入れ、便秘予防に心がけている 毎日の乳酸菌飲料導入により、腸内環境を整えるようにも努めている また水分摂取の少ない利用者には好きなものの摂取を心がけ、ムセのある利用者にはトロミをつけるなどの工夫をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応の曜日指定はあるものの、一人ひとりの希望に合わせての入浴としている 夏場に関しても入浴日以外はシャワー浴対応としている ただ入浴順序に関しては、それぞれの利用者の疾病により、職員のほうで決めさせていただく場合がある	入浴は、一応1Fは火・木・土、2Fは月・水・金に曜日を決め、その範囲で一人ひとりの希望に合わせて支援している。 入浴順序に関しては、それぞれの利用者の疾病により、職員の方で決めさせて頂く場合がある。夏場に関しても入浴日以外はシャワー浴対応としている。 菖蒲湯、ゆず湯など季節感も味わって頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりのライフスタイルを把握した上で、昼夜逆転にならない程度に休息・安眠の支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬表を事務所で管理して、いつでも確認できるようにしている また、2回/月に薬剤師による居宅療養管理指導を受け、薬に関してわからないこと・注意することなどの把握に努めている 症状の変化対応に関してはDrと相談の上、処方変更を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴を充分把握した上で、ケアプランに組み入れ、レクリエーション・散歩・外出など張りのある生活ができるように支援している 日常生活がマンネリ化しないよう心がけている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	できる限り散歩したり、買い物したりする機会を作っている また、ご家族などとともに出外・外食・買い物・通院をしていただいている まだ地域住民の協力体制とまではっていない	できる限り散歩したり、買い物したりする機会を作っている。また、ご家族などと共に外出・外食・買い物・通院などをして頂いている。車で買い物や遠出なども行っている。車椅子の人には、お天気が良ければ近くの公園まで出かけるし、元気な方はお花見も出来る近所のお寺にお参りに行ったりしている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホーム管理となっている 自己管理可能な利用者に対してはお小遣い制とし、なくなったら補充する形をとり、散歩・外出時など自由に買い物できるようにしている その他の日用品などに対してはご家族対応であったり施設対応であったりとなっている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望に応じて電話使用ができ、取次ぎも行っている また、手紙なども自由にやりとりできるようにしている 利用者によっては年賀状・暑中見舞のやりとりもしていらっしゃる	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場であることを考慮して、常に季節感を感じるような空間作りを心がけ、温かみのある家庭的な雰囲気になっている また、利用者にとって清潔感のある落ち着いた居心地のよい場所となるよう、常に心がけている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にてひとりで過ごすこともでき、またリビングのソファにてテレビ鑑賞することもできるよう、それぞれが思い思いに過ごせるようになっている また、テラスへ椅子を用意し、利用者とスタッフが午後のひと時を過ごす場面もある	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの・アルバムなどの持込に関してはご家族・ご本人と相談の上用意していただき、ご本人が居心地よく安心して暮らしていただけるように配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、3か所のトイレの内2か所が車いす利用可能となっているし、要所要所に手すりの設置となっていて、安全性を重視した環境となっている また、自立支援を促し、できる事・わかる事を把握した上でさりげなくサポートしている	/	

事業所名	グループホームふあいと天神橋
ユニット名	あおぞら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型認知症対応型共同生活介護としての理念を、事務所内に掲示し、共有して職員間で共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議メンバー、地域包括支援センターとの連携を深め、地域の一員としての住民との交流を推進している。2ヶ月毎に運営推進会議開催。6月にフリーマーケットとしてリサイクル活動実施。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々との日々の交流を通して、地域の人々に、認知症の人々の理解や支援方法を広める努力をしている。地域住民との交流の機会は年毎に拡大してきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表者、家族代表者の意見を積極的に取り入れ、地域での利用者へのサービス向上に活かしている。家族代表者の参加しやすい環境整備にも努力中である。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市区担当者にご利用者の状況、事業所の実状、ケアサービスの取組みを伝え、訪問を受けることにより、協力関係を築いている。各種連絡会の活用により協力関係が発展している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修への参加、施設内会議時の勉強会などをおして、周知徹底している。また、玄関の非施錠を含めて身体拘束に繋がるケアを排除しており、身体拘束に繋がるケアも行った事はない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の実態、禁止法の概要を研修、学習会を定期的に行い、未然に防ぐ努力をしており、職員全員が虐待の違法性を周知しており、虐待に繋がる環境も皆無である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加、ホーム内での資料保管、閲覧により、理解し活用できるようにしている。また、かかる事業、制度を実際に利用されている御入居者も存在する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時、契約時、及び解約又は改定の際に十分な説明を行い、理解を得て納得いただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、要望は傾聴し、尊重し受け入れるように心がけている。 家族来訪時などに収集した意見は可能な限り取り入れるようにし、不満・苦情に対しては迅速に、誠意ある対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が日常的に自らの意見、提案を自由に表明できる場を設け、環境を整えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、実績を勤務査定に反映させ、本人の努力能力を評価している。また適正な労働時間、残業時間の抑制、計画的な有給休暇の取得及び、夏季、冬季休暇推進により、取得率も向上しており職員のリフレッシュ、労働意欲の向上に役立っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の機会が多く、本人の希望、スキルアップを考慮して進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	各種外部研修、法人外交換研修を通じて、職員相互が、交流、連絡する機会も存在し、情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のご本人との面接時に不安要望を聞く事により把握し、説明により不安をできる限り解消して頂き安心して入所していただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接において今後についての不安、要望を聞き、話しあいながら、これからの生活について話し合い、入居初期段階においてもホームの生活に早く馴染めるよう援助し、よい関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始段階での必要とされている初期支援を見極め、その他の必要と思われるサービスの説明もするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特性を活かし、職員と御入居者は共に暮らす者同士としてのアットホームな関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、家族が訪問しやすい環境を整えている。受診の際も家族対応可能な家族は同行していただき、本人の体調を把握していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊・通信などの機会を通じて馴染みの人や場との関係維持の支援に努めている。面会、外出にて、なじみの人間関係の継続がされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員間で共有することにより、利用者に働きかけ、利用者同士が孤立せず、また対立せずに関わり支えあえる関係になれるようように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も、消息を把握し、連絡、来訪を通じて必要に応じて相談、支援に努めている。サービス利用終了後も訪問、連絡を頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	共同生活の中で可能な限り、本人の意向に添えるような生活環境整備に努めている。意向の表明困難な場合は、本人の意思を代弁できる様に観察し、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメント、入居前面談にて確認を行い、入居後の生活に活かせるよう努めている。また入居後も定期的なモニタリングにより把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、生活チェック表及び、職員間の申し送り、本人との会話を通じて、一人ひとりの毎日の状態を把握し共有できる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族、関係者の意見を聴き定期的なカンファレンスを行い、関係当事者の意見を反映した現状に即した介護計画を作成している。介護計画とモニタリングには全員参加にて、検証、作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録、生活チェック表、日常の観察とに即して職員の毎日の実践や介護計画の改訂に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対して多機能性をもって対応できるように柔軟な発想を持ってサービス提供できる様に勤めている。が、今後の課題として更なる取り組みが必要とされる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事参加、地域ボランティアの訪問などを介して地域に根付いた生活となってきたが、まだまだ地域資源を活用できる様努力する余地があり今後の課題である。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回のかかりつけ医による訪問診療を行っており、必要に応じて、地域のクリニック、専門医への受診の支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に4回のNs訪問を行っている。日報及び定期訪問時に個々の利用者の情報、きずきを伝えている。 また24時間体制でNsへの連絡が可能となっており、体調の変化に対しては看護職の指示を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院への訪問、病院関係者との相互連絡、相談員などとの連携により、病状把握に努めている。また、療養入院先、緊急受診先の病院との密接な関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前説明時に、ターミナルケアについて説明し、事業所として可能なこと、不可能なことを伝えるようにしている。 また、実際にターミナルケアを経験している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に、適切に対処できるよう法人内外研修に派遣して応急手当や初期対応の訓練を行っている。また緊急時対応マニュアルを常備して備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練計画書を作成して、防災訓練を定期的に行っている。また地域代表者を通じて、災害時の協力体制を取れるよう関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対しては個々の人格を尊重した言葉使い、対応を行っている。 また個人情報保護の法的遵守には、十分な配慮をするよう法人内研修、事業所内研修を通じて職員間で意識共有している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる様に支援している。また、ご本人の話を傾聴し、希望などを把握した上で、ご本人が納得できるような説明をして、できること出来無いことを明確にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のペースにより居室、リビングにて日々、自由に生活していただいている。食事時間は家族的雰囲気醸成と、遅食による食中毒の防止の為、食事の用意が出来次第に召し上がっていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を購入できるように、訪問買い物サロン、日々の買い物を活用している。 また、理美容は訪問理美容を活用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に、食材の準備、盛り付け、配膳、下膳、あとかたづけをできる方には行っている。また食事を楽しんでいただけるように極力、各人の好みに合わせられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量を個人記録に記載しし、状態を把握しており、水分量が不足しないよう促し、提供している。 また、栄養バランス等については食材配達業者を利用して行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけ・誘導を行っている また、歯科衛生士による居宅療養管理指導により口腔ケア指導を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて状態把握をし、排泄の有無、排泄パターンの把握に努めている。またトイレ誘導、見守りに努めている また、重篤な場合、本人にとって負担になってきた場合以外は安易なオムツ使用はしないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量のチェックを行い、適度な運動、腹部マッサージを取り入れ、便秘予防に心がけている。また便秘の予防につながる食材、及び嗜好品（ヨーグルト、乳酸菌飲料等）を取り入れている。便困服薬対応に関しては看護師の指示を受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間帯、早朝を除き、できる限り1人ひとりの希望に合わせて入浴できるように、入浴の声掛けをして納得して入浴していただいている。。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように配慮しながら、1人ひとりのライフスタイルを尊重し状況に合わせた休息を取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方薬表を事務所で管理、掲示して、必要時に確認できるようにしている また、2回/月に薬剤師による居宅療養管理指導を受けている。また症状が変化した際にはかかりつけ医に相談し、都度、薬の変更をしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を知る努力をし、ケアプランに連動し、レクリエーション・外出などの張りのある生活ができるように支援しているが、さらなる楽しみごとの開拓は必要と思う。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、各人の可能歩行距離、身体状況に配慮した上で散歩の時間を作っている、職員との買い物はADL上同行できる御入居者様が限られてきてはいる。家族との外出をできる機会を更に作ることが今後の課題である。地域の人々との協力による外出支援は実現には至っていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的にはホーム管理となっている。が安心センター等を通して、お小遣いを所持している方も居られる。 個人の買い物等は、職員同行、又は職員に依頼することにより行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望の際の電話使用、家族からの取次ぎは随時行っている。 また、手紙も自由にやりとりできるようにし、ポストへの投函支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じさせる共有空間を心がけている。 （七夕、Xマス、正月等のイベント時）1階庭、垣根沿い、2階テラスのプランターで花や野菜を栽培して楽しんでいただいている。照明、室内温度は設定温度に従い、利用者の体調、希望を考慮して季節に応じて調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、食卓自席にて、気のあった利用者同士で過しており、独りになりたいときは独りで自由に過せるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を自宅より持参していただき、居室にて使用すること、新たに使いやすい好みの家具、備品を装備することにより安心して暮らしていけるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、車椅子対応のトイレスペース、行動導線への手すり配置により、安全に移動、移乗できるように工夫された建物の内部環境になっている。また自立支援を基本に安全・有効に使用出来るよう支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームふぁいと天神橋

作成日

平成24年9月12日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	19	行事などの家族参加が少ない	少しでも多くの家族に参加していただく	曜日を日曜・祝日に設定し、より多くの家族参加を呼びかける	H25.3月まで
2	48	施設全体の外出実施がない	日帰りバス旅行を実施する	バスをチャーターし、ミニ旅行を企画する	H24.11月まで

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。